

特集

そうだ 救急，いこう。 救急教育・研修の取り組み

そこが救急科でもその他の科でも，大病院でも中小病院でも，医療から飛び出して大企業でも中小企業でも，何より大事なのは，「人」。

昨今は AI うんぬんという話もありますが，結局は「人」がいなければ，何もできない，何も始まらない。「人」を集め育て，「人材／人財」にしなければならない。教育・研修は，言うまでもなく，そのための重要なファクターです。

そこで今号の月刊「救急医学」では，各地域の中核施設・有名施設において今現在，どのような救急教育・研修を行って「人」を集め・育てて（集め・育てようとして）いるのか，具体的・特徴的な取り組みとリアルな現状をご紹介いただく特集を企画いたしました。

もちろん，各施設の教育・研修体制は長年の努力と工夫で成り立っているものであり，それを誌面で読んだからといって，「すぐに明日からあなたの施設でも実践できる！」というわけにはいきません。しかし，さまざまな救急教育・研修のモデルケースを知り，そこから刺激を受け，考えることは，きっと将来的な救急教育・研修の充実化・多様化につながっていくはずです。

救急医の不足が言われて久しく，高齢化と人口減少も進むなかで，専門医に限らず救急医療・救急医学に興味と意欲と理解のある医師をどのように集め，育てるのかということは，重大な課題であると思われます。本特集が少しでもそのヒントとなれば幸いです。

「そうだ 救急，いこう。」

これからの医療を担う人材が，そう思ってくれますように。